



白鳳点描

「ランドセル(石垣りんさん)」から

校長 川本 幸則

毎朝、朝食前に新聞を読むことが日課になっています。いつからだろうかと振り返ると、中日ドラゴンズの試合結果を確認するようになってからではないかと思ひます。そして、子どもの頃には、テレビの番組欄から見て(読んでとは言えないかな)いましたが、今は一面から読んでいます。

一面には、ニュース以外に様々なことが書かれています。その中のコラム(中日新聞の「中日春秋」)に紹介されていた一遍の詩が目にとまりました。

石垣りんさんの「ランドセル」という詩です。

コラムでは、ランドセルの重さについて書かれていて、「あなたたちのランドセルの重みは／違ってくるのだ」の部分から、「重みが違ってくるのは、子どもも年相応に何かを背負いながらいくためだろうか」と書かれていました。

ランドセルに入っているものは、学校での学びに使う教科書です。一年生のスタートでは、どの子の教科書も皆同じです。小学校の生活が始まると、日々の生活が教科書に染みこんで、人それぞれのものになっていくので、重みは違ってくると考えます。一人一人が学校で仲間と過ごす時間を大切に、いろいろなことを吸収していく中で、大きく成長してほしいと思ひます。そして、「手を貸すことの出来ない／その重み／かわいい一年生よ」と結ばれるところは、自分の力で立って歩いて行ってほしいとの願ひが表れていると考えます。

今年も、近年と同じように非常に暑い日が続きます。感染症対策も必要ですが、命に関わる「熱中症」対策が最重要です。

健康に気をつけて、暑い夏を乗り切ってくださいませ。

ランドセル

石垣りん

あなたはちいさい肩に
はじめて
何か、を背負う

机に向かってひらく教科書
それは級友全部と同じ持ちもの
なかには
同じことが書かれているけれど
読み上げる声の千差万別

入学のその翌日から
ほんの少しずつ
あなたたちのランドセルの重みは
違ってくるのだ

手を貸すことの出来ない
その重み

かわいい一年生よ。

『レモンとねずみ』石垣りん、童話屋刊

